



歩道橋から手に届く桜の木には、サクランボが可愛く実を膨らませています。4月、チューリップの花びらを集め、すり鉢でこすっては色水作りをしていた5歳児。その姿を見ていた3歳児は、5月、アヤメの花びらで色水作りを始めました。サクランボの実が赤くなった頃、今度はそれを使って色水作りが始まりそうです。

生き物が大好きな4歳児は、園のビオトープにいたおたまじゃくしを捕まえそのお世話に夢中です。石畳を歩くと尺取虫に出会い、その動きの面白さに愛着を感じたり、旧箱根小学校の近くでは、シマヘビがしっぽを震わせ怒っている姿に驚いたり、藤の花の香りに心地よさを感じたり…。たくさんの自然に触れいろいろな感性を働かせているようです。「先生見て！雲がきれいだよ。」子どもの声に誘われて、ふと空を見上げると青空の中にたくさんのうろこ雲。「ほんと！」…。子どもの気づきにはっとさせられ、先日聞いた講話の中の言葉を思い出しました。～「知る」ことは「感じる」ことの半分も重要ではない。美しいものを美しいと感じる感覚、新しいものや未知なものにふれたときの感激、思いやり、憐み、讃嘆や愛情などのさまざまな形の感情がひとたびよびさまされると、次はその対象となるものについて、もっとよく知りたいと思うようになる。そのようにして見つけ出した知識は、しっかりと身に付いていく。～まさに幼児期は、子ども自らが興味を持ったものに触れ、心動かされる経験の中で、いろいろな知識を身に付けていくのだなと思いました。そばにいる大人として、一緒に感動を分かち合える存在でいたいと思います。

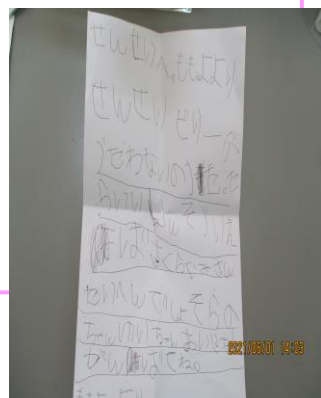
### うれしいおたより

1年生になった青山桃代さんから、お手紙が届きました。そこには、かわいい絵とこんな文章が綴られていました。

～せんせいへ。

せんせい、ビリーブうたわらないの？うたったらいいじゃん。そういえば、さくらぐみさん、たいへんでしょ。そらのちゃん、ゆいちゃん、あいりちゃん、がんばってね。 ももよより～

そして、～みんな、なかよくつかってね。～とビリーブの歌詞も添えられていました。ビリーブは、桃代さんが年長時によく歌っていた歌。箱根幼稚園のことを思い出し、心を寄せてくれる先輩の行動に、特に5歳児は、自分も小学生になったらと思うところがあるようでした。桃代さん、ありがとうね。桃代さんの思いとビリーブの歌詞カード。大切にしますね。



### 2 園交流ははじめの一步

昨年は1度もできなかった交流ですが、感染リスクを下げながら6/8湖尻ビジターセンターで宮城野保育園の友達と再会をしました。宮城野保育園の5歳児と周辺を散策する中で、自然と手をつないだりモリアオガエルたまごや木いちごを見つけたりしながら過ごし、疲れて元気がなくなってきた宮城野保育園の友達の手を引いてあげたりする姿が見られました。最後には、5歳児交流で同じグループの友達と顔合わせをし、帰ってきました。ほんのわずかな時間でしたが、年長児の3人には意味あるものになり、5歳児交流で一緒に「あつまれどうぶつのもりバスケットしたいな。」と言いながら、カードづくりをしている子もいます。この日の出会いが次へつながっていくように考えていきたいと思います。

### ありがとうございます

- ・第1回廃品回収は、生憎の天気でしたが13,080円の収益がありました。
- ・以前じゃがいも植えの時に世話になったサカバさんが「ずっと気になっていたのよ。」とキュウリの苗もってきてくださいました。今月もたくさんの地域の方に支えられた1か月になりました。地域の皆様、本当にありがとうございます。

